

平成27年9月定例会 県土整備委員会（事前）

平成27年9月14日（月）

[委員会の概要 危機管理部関係]

井川委員長

休憩前に引き続き、委員会を開きます。（13時04分）

これより、危機管理部関係の調査を行います。

この際、危機管理部関係の9月定例会提出予定議案等について、理事者側から説明を願うとともに、報告事項があれば、これを受けることにいたします。

【提出予定議案】（資料①）

- 議案第1号 平成27年度徳島県一般会計補正予算（第2号）

【報告事項】

- 県外における災害事象について
- 猟銃誤射による死亡事故について

黒石危機管理部長

それでは、危機管理部から9月定例会に提出を予定しております案件につきまして、御説明申し上げたいと思います。

お手元の危機管理部の県土整備委員会説明資料に基づき、御説明申し上げます。

資料の1ページをお開きください。

危機管理部における9月補正予算案といたしまして、最下段、計の欄から2列目に記載のとおり、6,952万2,000円の補正をお願いするもので、補正後の予算額は69億8,997万5,000円となっております。

財源につきましては、財源内訳欄に記載のとおりでございます。

続きまして、2ページをお開きください。

補正予算の課別の主要事項について、御説明申し上げます。

まず、危機管理政策課についてであります。

上から3段目の防災総務費の摘要欄①、防災対策指導費のア、防災総務費では、危機管理政策課の運営に要する経費といたしまして、207万7,000円を計上しております。②の防災センター運営費のア、次世代エコカー災害時活用モデル事業では、電気自動車の優れた蓄電能力を活用した災害時の電源確保の取組を全県に普及拡大するための経費として、550万円を計上いたしております。

次に、③、危機管理対策費のア、国民保護訓練費では、国民保護法に基づき、テロなどの緊急対処事態発生時における、関係機関相互の連絡調整や初動対応などの検証を目的に、共同図上訓練を実施するための経費として、590万円を計上しており、危機管理政策課計で1,347万7,000円を計上いたしております。

続きまして、3ページを御覧ください。

とくしまゼロ作戦課についてであります。

上から 2 段目、防災総務費の摘要欄①、防災対策指導費のア、G 空間防災システム・L アラート連携推進事業では、平成 26 年度に実施いたしました戦略的災害医療 G 空間プロジェクトの成果を活用し、迅速かつ適切な災害対応を可能とするため、津波浸水・地震動シミュレーション等とデジタル道路地図を連携させた防災業務支援システムを構築するとともに、L アラートを活用したカーナビへの情報配信基盤を整備する経費として、とくしまゼロ作戦課計で 5,000 万円を計上いたしております。

4 ページをお開きください。

安全衛生課についてであります。

上から 2 段目、食品衛生指導費の摘要欄①、食肉衛生検査所運営費では、食肉衛生検査所の運営に要する経費として、安全衛生課計で 394 万 5,000 円を計上いたしております。

5 ページを御覧ください。

生活安全課についてであります。

上から 4 段目、環境衛生指導費の摘要欄①、自然環境保全等調査費のア、生物多様性を守るくらし啓発事業では、とくしま生物多様性センターの設置を契機として、身近な消費の中に、生物多様性から得られる資源が利活用されていることを消費者の皆様に普及浸透させるための経費として、生活安全課計で 210 万円を計上いたしております。

危機管理部関係の提出予定案件の説明については、以上でございます。

この際、2 点、御報告申し上げます。

配付資料はございませんが、まず 1 点目は、県外における災害事象についてでございます。まずはじめに先週の 9 月 10 日から 11 日にかけて、関東東北地方において甚大な豪雨災害が発生し、住民の方々がお亡くなりになり、今なお多くの行方不明者が発生し、懸命の捜索作業が進められているところでございます。お亡くなりになられた方々の御冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様方に対してお見舞いを申し上げたいと思っております。

また、本日、9 時 43 分でございますけれども、熊本県阿蘇山で噴火が発生をいたしました。怪我人はないとのことですが、これにより噴火警戒レベルが 2 から 3 に引き上げられております。いわゆる入山規制がなされております。2 キロメートルの範囲内で大きな噴石や火砕流の発生のおそれがあるということでございます。

これらの県外の災害地に対しまして県では発災後直ちに情報収集を開始いたしております。まず、県内からの小中高等学校の修学旅行はないことを確認いたしております。県人の旅行者の安否確認、県の関係企業への影響などについても、現在のところ本県関係の被害や影響というものは報告されておられません。引き続き情報収集に努めてまいりたいと考えております。

次に、猟銃誤射による死亡事故について御報告をさせていただきます。

去る 8 月 29 日午後 5 時頃、那賀町海川におきまして、猿の有害鳥獣捕獲作業中の猟銃誤射により、近所にお住まいの 80 歳代の女性が死亡するという痛ましい事故が発生いたしました。

これを受けて県では、8 月 31 日、緊急の鳥獣被害管理対策戦略統括本部会議を開催いた

しまして、再発防止の協議を行うとともに、9月2日と3日に、県下を3ブロックに分け、市町村、地区猟友会会長、有害鳥獣捕獲班班長を対象とした銃猟による死亡事故再発防止緊急会議を開催いたしたところでございます。猟銃の適正な取扱いや操作に関する注意事項を再確認するなど、再発防止を徹底したところでございます。

さらに、有害鳥獣捕獲作業にあたりましては、地域住民の皆さまの安全確保を最優先に、市町村の防災行政無線を活用した広報・注意喚起、捕獲作業現場付近への作業看板やのぼりを立てるなど、市町村とも連携しまして、地域住民の皆さま方への周知を強化し、安全を確保してまいりたいと思っております。

以上、御報告申し上げます。

御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

井川委員長

以上で、説明等は終わりました。

これより質疑に入ります。

それでは、質疑をどうぞ。

喜多委員

今説明がありました危機管理部のG空間防災システム・Lアラート連携推進事業ということで、5,000万円の計上がされました。これの概要の説明をお願いします。

坂東とくしまゼロ作戦課長

G空間防災システム・Lアラート連携推進事業についての御質問でございます。この事業につきましては、まず、G空間といいますのはジオテクノロジーの略でございます、いわゆる地理空間情報、具体的にいいますと、例えばパソコンとかスマートフォンなどで、最近ですと、地図の上でカーナビのように御自身がいる場所を表示したり、周辺にある、例えばレストランであるとか、そういったものの情報をスマートフォンなどから確認することができる、こういうのはG空間情報といまして、地図といろんな情報を組み合わせて検索ができる、こういったものでございます。

今回、私どものほうで御提案させていただいておりますこのG空間防災システムといえますのは、県で平成25年の4月から運用開始しております災害時情報共有システム、これを関係者間で、例えば庁舎の被害状況でありますとか、避難勧告がどこの地域に出ているか、それから、避難所がどこに開設をされているか、こういった情報を地図の上でも表示ができますし、それぞれその情報を一覧表の形でも見ることができる、そういうシステムを関係者間で運用しております。市町村でありますとか病院、それから我々行政で共有をしておるものです。

このシステムの上に、昨年度、それから今年度、2年続けまして、総務省から委託事業としてこの機能強化の予算を頂いております。今回は、この戦略的災害医療G空間プロジェクトという形で、昨年度はこの中に、地域SNSといまして、住民参加型の、住民の方が、例えば、今、家の前が冠水をしているでありますとか、隣の裏山が崩れかけてい

るとか、そういった情報を投稿ができる機能、これを昨年度、機能として付け加えております。

さらに、今年度、そういったものを全県展開する、いわゆる実運用に持っていくことに加えまして、今回5,000万円で提案をさせていただいておりますのは、その中に、夜間などにおいて停電をしているようなときは、周辺の状況がわからない。例えば、大雨のときでありますとか津波のときには、停電をしていて状況が確認できない。そういったときに、シミュレーション、被害の推計をして、その内容を、情報は取れないんですが、恐らくこれぐらいまでは浸水しているであろうとか、道路が崩れているであろうとか、そういったものをシミュレーション、これは津波浸水地震動シミュレーションと呼んでおりますが、こういったものを新たに機能として付け加えまして、それに、道路の通行の状況につきましてもその中から推計をしていく。津波の浸水区域の中にある道路は多分使えないだろうということで、ここまでは通れるけど、ここから先は通れないというふうな推計を行う、これがデジタル道路地図と連携をさせていくものなんですけれども、こういった機能を、先ほど申し上げました平成25年の4月から運用しております災害時情報共有システム、こちらの中に組み込みまして運用できるようにしようというものでございます。

それと、もう一つ、これは市町村から住民の方に向けて避難勧告とか避難指示を早く出せるようにする、LアラートというFMMCという財団がやっている仕組みで、ケーブルテレビとかNHKなどの、L字放送といって、文字放送で避難勧告などが出ておりますが、これは今年の7月の台風のときにも運用したんですけれども、避難勧告とか、避難所がどこに開設されている、こういった情報を配信できるようになっております。その中に、テレビなどでは配信ができていますけれども、車に乗っている方、こういった方は、東日本大震災のときにも30%ぐらいの方は、スマートフォンなどを運転中に見ることができませんので、津波警報が出ているということを御存じなかったという統計がございます。そういった方々、ドライバーの方にも確実に情報が届くように、そのLアラートの情報の配信先を広げようということで、今回、カーナビへの情報配信の基盤を整備するというところで考えております。これらの事業をもって連携推進事業としております。

#### 喜多委員

新たなシミュレーションを当てはめて、これの上にプラスするというので、これは誰がどのように当てはめていくようになるんですか。

#### 坂東とくしまゼロ作戦課長

シミュレーションの結果につきましては、徳島大学と協力をしまして、徳島大学で、そういうシミュレーションの結果を地図の上に色つきのモザイクで出していく部分までのデータを作成していただきます。それを地図の上で重ね合わせをして、市町村の担当者でありますとか、我々行政、それから医療機関、こういった関係者が確認をすることができるような想定で考えております。

#### 喜多委員

そうしたら具体的には、徳島大学のどこかがこれを何か起こったらシミュレーションするのではなくて、前もってはめるような、どのような状況でどういうふうにしていくんでしょうか。

坂東とくしまゼロ作戦課長

徳島大学の工学部、環境防災研究センターというのがありますが、そこの先生方の御協力を頂きまして、気象庁から震源の場所と、それからマグニチュード、地震の規模、こういったものが地震速報という形で出てきますが、それを使いまして、まず事前に 100 パターンほど、震源域とか、それからマグニチュード、小さいものは余りシミュレーションしても被害が出ませんので、ある程度大きなもの以上になるんですが、100 パターンほど事前にシミュレーションをしておきまして、これはもう絵の形まで全部仕上げておきます。そして、実際に地震が起きたときには、気象庁から出てきている震源の位置、それから規模、こういったものと合わせて、どれが一番近いかというものを自動的に選びまして、その選び出したものを地図の上に重ね合わせて表示をする、そういった形を考えております。

喜多委員

防災ということになっておるんですけど、地震だけを想定しているということなんでしょうか。

坂東とくしまゼロ作戦課長

ここでは津波浸水地震動シミュレーションと書かせていただいておりますが、それ以外にも雨雲レーダー、これは、1 キロメッシュ、1 キロメートル四方で今どれぐらいの強さで雨が降っているのかということにつきましても、これを気象会社からデータを購入するんですが、そのときに予測のデータ、こちらのほうも一緒に購入をしまして、これから先 1 時間とか 2 時間とか、余り長いと精度が落ちてしまうんですが、1 時間、2 時間先の降雨の予測、こういったものについてもシミュレーションを行いまして、地図上で重ね合わせて確認ができる、そういうふうを考えております。

喜多委員

ちょっと話が前後するんですけど、この G 空間、地理空間情報技術という、このジオテクノロジーというのは、辞書を引いたんですけど、入っていないので、これはどういう言葉でしょうか。

坂東とくしまゼロ作戦課長

ジオテクノロジーといいますのは、これは国の造語でございまして、国のほうで、今、ナノテクノロジー、それからジオテクノロジー、それとバイオテクノロジーという三つ、基幹のテクノロジーとして推進しているものの一つでございまして。

喜多委員

わかりました。そうしたら、これは5,000万円かけて効果がどれだけ現れるかというのはわからないと思うんですけれども、今までも予算をかけている上に5,000万円かけて、是非必要なことと思うんですけれども、その費用対効果はわからないでしょうか。

坂東とくしまゼロ作戦課長

費用対効果につきましては、数値化することは難しいですが、市町村、それから自衛隊、消防、警察、そして病院関係者等々、これからこの共有システムを広く情報共有することになりますので、その方々に活用いただけるように周知も含めて推進していきたいと考えております。

喜多委員

12日に関東東北豪雨ということで、鬼怒川決壊で浸水が1万1,000棟ということで、茨城で22人行方不明ということと、13日の日曜日は、避難指示が、そして避難勧告が出てなかったということの報道だけですけれども、現実はどうな状況かわかりませんが、これが、よその市のことでいきなり言えないということでもありますけれども、こんなような状況も含めて、全体的に命を守るためにはどのような状況でしょうか。

坂東とくしまゼロ作戦課長

避難勧告、避難指示につきましては、確かに一部出ていなかったという報道がございますが、その前に、大雨の特別警報というものにつきましては、茨城では鬼怒川の堤防が決壊する5時間半前、それから、宮城でも堤防決壊の2時間前にそれぞれ発表されております。一部、堤防が決壊した段階で避難指示が発令されなかった事例があるとは聞いておりますが、報道では恐らく市役所の中も混乱していたのではないかというお話ですが、例えば私も徳島の場合は、昨年度の8月豪雨の事例を踏まえまして、豪雨災害時避難行動促進指針というものを策定して、市町村に対しての避難情報の適切な発令というものを促しております。その際、情報の共有というものにつきましては、県からも2名1組の職員を派遣しまして、県と市町村との間の情報共有というものに対して、市町村が住民対応に忙殺をされていても情報が収集できるような、そういう体制は取っております。

喜多委員

徳島でもいつ起こるかかわからない地震津波とあわせて、豪雨ということは、本当に明日かもわからんし、いつ起こるかわかりません。どうか危機管理部を中心に、県民の命を守るために、起こったら大変な時期になりますけれども、その時期に万全の体制をしいていただきますことを要望して終わります。

島田副委員長

先ほど部長からございましたけども、ちょっと鳥獣についての御質問をさせていただきたいと思います。8月に事故が起きましたけども、早急な対応、また、それに対する再発防止に対しての御尽力を頂きましてありがとうございます。その中で、今までに、鹿、

猿とかイノシシ等による農作物の被害がたくさん出ておりますし、市街地におきましても、今まで出てこなかったところに出没するという経緯がございます。過去の今までの捕獲数とかを教えてくださいと思います。

#### 小椋生活安全課長

ただいま過去の捕獲数についてということでございますが、特にイノシシ、鹿、猿が農作物被害、それから地域の生活の被害、それから自然植生の被害で大きいものでございますので、この三つの獣につきましてですが、平成25年度はイノシシが6,781頭でしたが、平成26年度は8,240頭で、対前年22%増、それから、鹿につきましては、平成25年度9,954頭でありましたが、平成26年度は1万674頭ということで、対前年7%の増加、それから、猿につきましては、平成25年度1,398頭でありましたが、平成26年度は1,774頭ということで、対前年27%増ということで、三つを合計しましても、平成25年度1万8,133頭だったものを、平成26年度は2万688頭ということで、14%増ということで、被害が非常に大きいことですから、捕獲を強化して取り組んでいるところでございます。

また、今年状況なんですが、平成27年度、まだ狩猟は始まっておりませんので、有害鳥獣の捕獲許可による捕獲数ですが、4月から7月の4か月の間でございますが、イノシシにつきましては1,270頭、鹿につきましては4,598頭、猿につきましては427頭を今現在集計ができたところでは捕獲しているところでございます。

#### 島田副委員長

例年よりも毎年増えているようでございますが、実際、農作物等の被害はどんどん増えているようでございますので、引き続き御尽力いただきまして、駆除に対してしっかり取り組んでいただけたらと思います。

#### 井川委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、危機管理部関係の調査を終わります。

これをもって、県土整備委員会を閉会いたします。（13時28分）